

忍びの者？

飼育員：おおうち

はちゅうるい館には、人目を避けて上手く隠れている者がいます。

その名は「トッケイヤモリ」

中国南部から東南アジアに生息する夜行性の大型のヤモリで、日中は物陰に隠れていることが多いです。鳴き声が「トッケイ」と聞こえることからその名がついています。

普段は隠れてばかりいるのでさぞかし臆病者と思いきや、エサを捕まえる俊敏な動きに、ちと「こえ～（怖い）」と思わせる一面も。

大型のヤモリの割には見つけにくいですが、「そこには何もいないから、ほっトッケイ」と言わずにじっくり探して下さいね。



新しい担当の動物たち。よろしくお願いします！ 飼育員：なかむら

【刺激的な担当替え】長年、キリンなどの動物を担当していましたが、2025年6月からはゾウなどの動物の担当になりました！担当エリアが変わると、担当する動物もガラリと変わります。今回、私が担当することになったのは、大きい順にアジアゾウ・ヤクシカ・カピバラ・マーラ・コツメカワウソ・アカリスです。これまでの経験や技術を活かしつつ、日々動物たちから刺激を受け、多くのことを学んでいます。



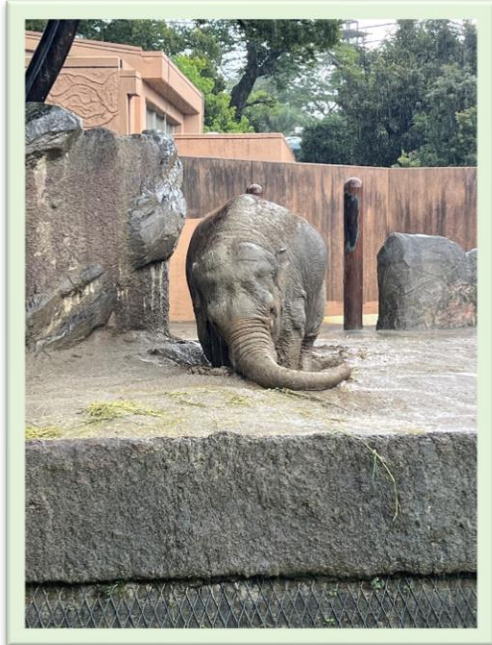
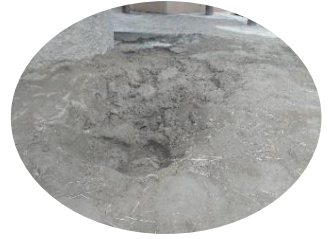
【動物たちの意外な一面】アジアゾウは目が怖い印象でしたが、少しずつ慣れてきました。現在はゾウの状態の判断や他の職員の動きを勉強中です。鼻を器用に使う動物なので、独特の間合いがあります。また、意外にも足裏は柔らかく、押すと少しへこみますよ。他にも、カピバラはノッソリと水の中にいる印象でしたが、実際は地上にいることが多く、エサの時間や入舎時には俊敏に動くこともあり驚かされました。もたもたしていると予想外の方向に歩きだすため、入舎させるのが意外と難しい一面もあります。マーラはとても繊細で臆病な動物だと思っていましたが、最近は少し慣れてくれたのか近くまで寄ってきてくれるようになりました。動物たち私たち飼育員をよく観察し、安全かどうかを判断しているようです。担当になって初めて知ることばかりで驚きの連続です。

新たな動物との出会いは、飼育員の醍醐味の一つです。動物から日々学びを深め、その魅力を来園者の皆さんにお伝えしていきたいと思っています。

巨大な穴の謎を追え・・・

飼育員：なかもと

最近、ゾウの展示場にある砂場に穴が開いていることに気が付きました。深さにして60～70cm、直径は1.5m以上もある巨大な穴です。いったい誰が何のために掘ったのか・・・。



ある大雨の日、展示場の横を通りがかった時にずいぶん背が低いゾウがいるなと思い、砂場の方を見てみると・・・。穴に入って遊ぶスズコの姿がありました。水たまりになった穴に^{あし}肢や頭をつっこんでバシャバシャと泥をかぶってとても楽しそう！謎は全て解けた！

結果的に泥遊びに使っていましたが、普段からゾウは砂浴びをします。砂には保湿や暑さ対策、虫よけなど様々な効果があります。暑い夏に少しでも新鮮で冷たい砂を求めた結果あんなに深い穴になったのでしょう。

前肢で器用に掘って、柔らかくした砂を鼻で掴んで背中やお腹にバサッとかけます。たまに園路に向かってバサッとしますが、おすそ分けということでご容赦下さい。

角にご注意！ 1年で変わるシカの姿

飼育員：ひの

ホンシュウジカの角は4月になるとによきによき伸び始めます。最初は柔らかい皮膚に覆われていますが、夏ごろ～秋にかけてだんだん固い骨に変わっていきます。野生のシカの完成した角は、冬を超えて春にポロっと抜け落ちます。そして、またすぐ新しい角の成長が始まります。あの立派な角は、なんと毎年生え変わっているんですね。その様子はシカ展示場にあるパラパラマンガで確認できるので、ぜひ見に来てください。



(パラパラしにきてね)



(一皮むけます)

さて、これから秋が深まるとシカの恋の季節がやってきて、完成した角を使ってオス同士が戦います。普段は飼育員から逃げていくような大人しいシカですが、この時期だけは荒くれものに大変身。フシュー！！と鼻息荒げながら飼育員にも向かって突っ込んできます。とてもじゃないけど危なくて仕方がないので、大抵どの動物園でも人と動物の安全のため、この時期になると角は切ってしまいます。個人的にはゾウより怖い・・・。みなさんも十分離れてご覧ください。